

## 第 17 回下水道政策研究委員会 議事概要（案）

日 時 平成 17 年 9 月 30 日（金） 10:00～12:10

場 所 日本下水道協会 第 1・第 2 会議室

出席者 委員長 松尾委員長

委 員 石川委員、岸委員、佐々木委員、高橋委員、藤村委員、松井委員、  
松田委員、森下委員

## □議 事

## 1. 報告事項

- 1) 下水道政策研究委員会審議経過について
- 2) 下水道中長期ビジョン小委員会報告「下水道ビジョン 2100」について
- 3) 浸水対策小委員会提言「都市における浸水対策の新たな展開」について
- 4) その他
  - ・下水道法改正について
  - ・下水道地震対策技術検討委員会報告について

## 2. 計画小委員会（仮称）の設置について

## 3. その他

## 議事概要

## 【下水道中長期ビジョン小委員会報告について】

- ・ 100 年後の水循環は、どうなっているのか、全体図の中で下水道がどうなっているか、あるいはどう変わっているか、絵として描いてほしい。また、流域という視点が重要である。
- ・ 有機農業の価値が高まる状況において、汚泥処理の後を農業につなげる方向性など農業との関係をより模索する必要がある。
- ・ 環境省では、環境基本計画の見直しのための水循環の検討会が始まっている。検討内容についてフォローが必要である。

## 【浸水対策小委員会提言について】

- ・ 下水道だけで解決できる課題ではないので、河川部局等と相当密接な連携を図りながら、流域の問題として捉える必要がある。

## 【下水道地震対策技術検討委員会報告について】

- ・ 今後の建設のための用地を臨時に活用したことにより、沈殿処理機能や消毒処理機能が確保できた。災害対策として、各処理場でスペースを持つておくことが有効である。

## 【計画小委員会（仮称）の設置について】

### （普及拡大）

- ・ 少子高齢化により人口分布が変わるため、地方では人口が減少する。無駄な整備にならないように工夫する必要がある。

### （浸水対策）

- ・ 時間 100mm の降雨はもはや珍しくなく、低地での地下室の建設を規制する、ピロティの義務化など、下水道から他の部門に積極的に提案すべき。
- ・ 流出率を低減するための貯留あるいは浸透施設に対して、税制による手段も検討してほしい。

### （水環境・水循環）

- ・ 都市と農業をどう考えていくかが重要である。下水道側から将来の都市・エネルギー問題などを考えた際に、都市のあり方。土地利用のあり方を議論してほしい。
- ・ 流域小委員会において検討した水のネットワークについて実現に向けて、さらに検討してほしい。
- ・ 海が最終的な受け皿であることを鑑み、海洋や水産業という視点からも検討してほしい。

### （資源利用）

- ・ バイオマス利用を成功させるためには、安定したシステムの構築が必要である。
- ・ 日本の気候は亜熱帯化しつつあり、草が多く生える。大量の刈り草の処分を下水道が引き受けることを考えてほしい。

### （アセットマネジメント）

- ・ イギリスではこの分野の研究が進んでいるので、参考にするとよい。

### （官民の連携）

- ・ イギリスでは極端な民営化により、緊急的な課題が生じた際に、対策を打ちたいが予算がない状況となった。全てを民営化することのもつ国土経営の弱点と思われる。官民の連携のあり方についてよく議論すべき。

### （その他）

- ・ 下水道が核になりながら流域の問題を考える等の取組みを各地域で進めるためには、先般の下水道法改正で実現できなかったようだが、下水道法の目的に「循環のみち」を書くことが必要。

以上